

注意喚起情報 USB メモリを経由したウイルス感染の注意

最近、USB メモリを経由して感染を広げるウイルス(USB メモリ感染型)の検出数が増加しており、学内においてもウイルスに感染した USB メモリを学内パソコンで使用したことによるウイルス検知が増加傾向にあります。

USB メモリ感染型ウイルスは、パソコンに USB メモリを接続すると自動実行され Windows の正常動作に必要なファイルを破壊したり、さらに悪質なウイルスをダウンロードしてしまう例も報告されています。

USB メモリや、メモリカード、USB 接続型ハードディスクなどをお使いの方は次の点にご留意ください。

- ご自宅など、ご自身で管理しているパソコンの OS、アプリケーション、ウイルス対策ソフトの定義ファイルを常に最新の状態にする。
- パソコンだけでなく、USB メモリに対しても定期的にウイルスチェックを行う。
- 持ち主のわからない USB メモリは使用しない。
- 身に覚えのないファイルが保存されていても、安易に実行しない。

詳細はこちらをご覧ください。

(参照)独立行政法人 情報処理推進機構による 2008 年 11 月のコンピュータウイルス・不正アクセスの届出状況

<http://www.ipa.go.jp/security/txt/2008/12outline.html>